

2014年1月

佐伯通信

【熱海だより】



写真撮影：双葉文庫編集部

三人のイワネ

佐伯通信

2014年1月(平成26)
第19号
発行
佐伯泰英事務所
担当/双葉社
禁・無断転載

月並みだが
新玉の年に気持
ちを少しばかり
引き締めてい
る。百年前の日
本はなにして
いたか。歴史の日
本を開くと日本
は第一次世界大

戦に参戦し、トイツは宣戦布告した年だそうな。雪崩れるように戦争に傾斜していき、あの一九四五年八月十五日の敗戦を迎えた。以来、曲がりなりにも戦争とは無縁の六十九年が経た。だが、最近とみに國の内外はきな異ぐ、決して人心平穏とはいえない。今年一年が平和でありますよう人に事を尽くし、八百万の神に祈るしかない。

たが、最近とみに國の内外はきな異ぐ、決して人心平穏とはいえまい。今年一年が平和でありますように人事を尽くし、八百万の神に祈るしかない。

2014年1月

佐伯通作

【近刊予告】

佐伯泰英／近刊のお知らせ

5月
日 発売予定

4月
10日 発売

3月
14日 発売

1月
9日 発売予定

鎌倉河岸捕物控 「後見の月」(仮)

吉原裏同心 「髪結」 〔佐伯通信〕第20号が入ります。 （初版の初回出荷分にのみ挟み込み）

交代寄合伊那衆異聞

〔光文社文庫〕
夏目影一郎始末旅
〔決定版〕 5
『百鬼狩り』

以降連続刊行
4月7日発売予定
『下忍狩り』
10日発売予定
『五家狩り』

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。

<http://www.saeki-bunko.jp> | 佐伯泰英 ウェブサイト | 検索

この佐伯通信は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもとに発行いたします。

「二羽の軍鶏」

株双葉社 文庫編集部
「居眠り磐音 江戸双紙」担当 奥山康浩



皆様、あけましておめでとうございます。第四十五巻『空蟬ノ念』はいかがでしたでしょうか？

ここ数巻、松平辰平と重富利次郎の身辺が急展開を迎えています。思い返せばこの二人が佐々木道場に入門したのは、安永四年の十二月頃、遡ること九年前でした。二人とも十八歳という若さ、当時の辰平は“稻荷小路の暴れん坊”などと呼ばれ、血氣盛んで負けず嫌い。軽口をたたいたり、磐音と鐘四郎が玲圓に叱られたと聞いては、「いっひひひ……」と笑い声を洩らすほどやんちゃでした。一方の利次郎はといえば、無口でひた向き、真面目に黙々と道場の床を雑巾かけするような寡黙な青年。いやあ、二人とも随分成長しました。礼儀正しく思慮深い辰平、小梅村のムードメーカー的存在の利次郎、何より二人とも研鑽を積み、一廉の剣術家となりました。辰平の廻国修行、利次郎の高知入り、さらに高野山での坂崎一家との合流などを経て今の彼らがあります。気が付けば彼ら二人も二十七歳、藩政改革を夢見て江戸勤番から豊後閔前に戻ってきた当時の磐音と同じ年齢になりました。ふと、当時の磐音と今の辰平、利次郎が手合わせしたら、結構いい勝負するかも、などと思ってしまうのは私だけでしょうか？

本年も「居眠り磐音 江戸双紙」シリーズを何卒宜しくお願ひ申し上げます。

刊行が定着した『居眠り磐音 江戸双紙』は四十五巻を数え、豊後閔前城下を見下ろす峠の情景から、果てしなくも長い旅路を歩いてきた。シリーズが定着した頃から、自らを鼓舞するようになり始めた「五十巻完結」が現実味を帯びてきた。

夢がかなたちになるなんて、作者自身がいちばん信じられないでいる夢の続きを

見ているかのようだ。ここ数年、作品を書きながら主人公坂崎磐音が歩いてきた長大な人生を作者も追体験してきた。編集者、校閲者

を始め、書店さんなど多くの関係者の協力に感謝の一言しかない。なにより物語を支え、激励し続けてくれた。さった読者諸氏の存在なしにはこの物語はなかった。娘が偶然にもネットで知った情報だが、お生まれになつたお子さんに「磐音」と名付けられた読者がいらっしゃるとか。それも複数だ。一人目の「磐音ちゃん」を知ったのは四、五年前だから小学校に入学するのも間近か。二人目の「磐音ちゃん」は本年三歳を迎えるそうな。ついでに

新年に改めて誓う。物語の終焉に向かってもうひと頑張りだ。他のシリーズともども本年も宜しくお付き合いのほどを願い奉ります。

亭主敬白

〔佐伯通信〕第20号は、4月10日刊行予定の『髪結吉原裏同心』
(光文社文庫)に入ります。

（写真：吉原里同心）